

(C)研究会合宿・研究会が主体となった学術交流活動

静岡県掛川市研究会合宿

宮垣元研究会

概要

活動期間: 8/7~8/9

活動場所: the Port kakegawa、蓮福寺、掛川市役所を中心に、掛川市街地全域

活動の目的: 市民全体に報徳思想や生涯学習の意識が根付いている特長がある掛川市において、行政やソーシャルセクターの活動を調査、考察し、今後の研究会全体での活動に活かす3日間で行ったこと:

- 掛川市街地でのまちづくりに関するフィールドワーク
- the Port kakegawa 運営スタッフの方とのパネルディスカッション
- POTLACK(掛川東病院の院長先生及び掛川市民の方々との交流)
- 掛川市のコミュニティづくり、教育、行政の在り方についてグループワーク、インタビュー
- 考察、調査結果について発表

1日目の活動

掛川市街地でのフィールドワークを行った後に、the Port kakegawa 運営スタッフの方とのパネルディスカッションやPOTLACKを通じた掛川市民の方々との交流を行った。パネルディスカッションでは、掛川市内の高齢化を問題提起とした上で、若い世代を定期的に呼び込むための施策を1人ずつ共有した。また、街づくりの一環で様々なプロジェクトが立ち上がる一方で地元市民にも強い関心を示してもらうための意識作りの取り組み方を多角的なアイデアと共に考え意見を出し合った。その後、掛川市中心部にある自作の共用スペースにて地元の方々とPOTLUCKを実施した。当日は掛川東病院の院長さんを始め、1ヶ月前に掛川に引っ越してきた方や、掛川市内で商業を営むご家族など、総勢40名ほどが参加し、街の雰囲気を実感できる有意義な時間を共に過ごすことができた。



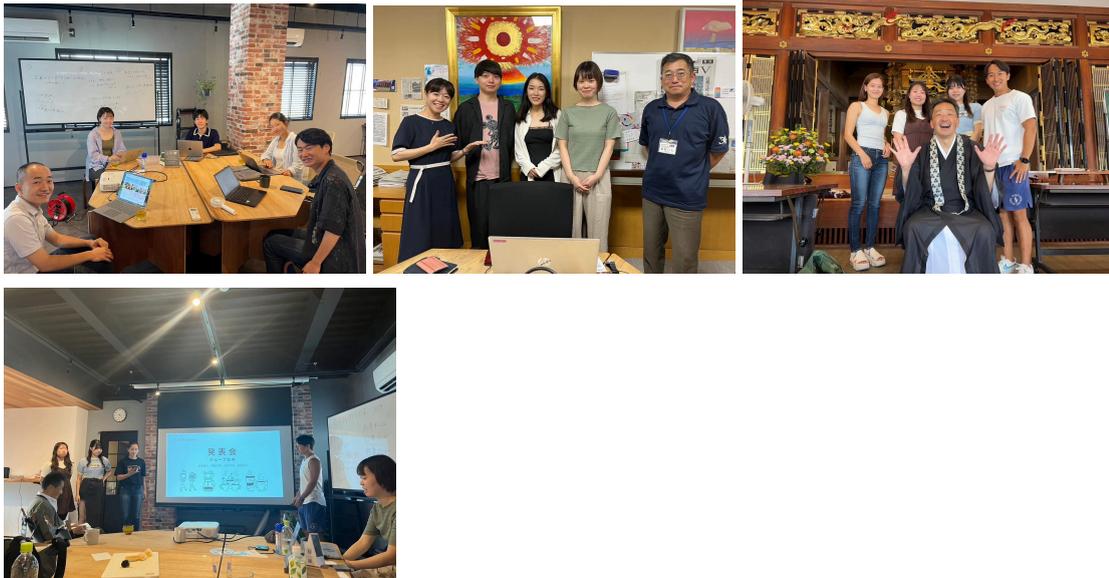
2日目の活動

午前は三つのグループに分かれ、インタビューを実施し、掛川市の地域性や事業内容について調査した。コミュニティづくりグループは、蓮福寺の住職をされている馨敏郎様を対象に、蓮福寺にてお話を伺った。地域コミュニティのハブ機能を担う「ほっこり法語カフェ」に込められた想いや、掛川の市民が通い続ける理由などについて伺った。行政グループは、掛川市の副市長を務める石川紀子様、掛川市役所にてお話を伺った。全国で初めて公募によって副市長に選ばれ、DXの推進などに力を入れている。掛川市のソーシャルセクターについても詳しく教わり、認定されている35団体のNPO以外にも、様々な形態で組織化されない社会活動が行われていることが分かった。掛川市民の新しいものに挑戦する精神が根付いていることが表れていると感じられた。教育グループは、NPO法人ESUNEの共同代表を務められる斉藤雄大様に、the Port

kakegawaにてお話を伺った。特に、静岡大学の学生と共同で学生の新規プロジェクト支援を行うICLAという事業に関して、設立の背景や成果について学んだ。他のプロジェクトにおいても、掛川市民の新しい挑戦や学び、働きなどに寄り添い、一人ひとりに向き合うことで、掛川市内に好循環をもたらしていることを学んだ。

午後は成果発表会を実施した。インタビューに応じて頂いた斉藤様と馨様をご招待し、各グループの報告会にご参加いただいた上で、最後にフィードバックをいただいた。

夕食は同時期に合宿を実施していた立命館大学のゼミナールとの懇親会に参加し、大学間の研究交流を行うことができた。また、副市長をはじめとする掛川市関係者の方々にもご参加いただき、交流と親睦を深める貴重な機会となった。



研究成果と今後の展望

私たちはこの合宿を通し、掛川という土地の特色について学んだ。掛川は静岡と浜松の中間地点として栄えてきた町だが、市民が中心の活動が盛んであるという特徴がある。この要因は大きく2つあると考えられる。

1つ目は、人と出会える場所があるということである。今回関わったNPO法人ESUNEやPOTLACK、その他掛川市民がつくりあげる居場所を通して、なにかをしたい人同士が出会える場所が豊富にあり、なにかをできる場所や共働できる人がいるという環境である。2つ目は行政の働きである。過去、新幹線誘致をした際に駅舎は市民の寄付で賄った。市民に根付いた報徳思想や生涯学習の意識が表れているのと同時に、行政側のディシジョンやアクションが適切であるとも捉えることができる。市民にもとから根付いた意識に加え、各アクターが適切に機能し、掛川全体が地元を盛り上げたいと同じ方向に動いていることが今回の合宿でわかった。

コロナ禍を経て数年ぶりの研究会合宿だった。手探りで学生が主体となって合宿を成立させることができ、その実施の過程での学びも大きい。今後、この合宿の経験を次の世代にも繋ぎたい。コロナウイルスの影響で、研究会での学びはグループ単位でのフィールドワークはあったものの、研究会全員での実践的な学びはなかった。今回の合宿を通して、今後もよりキャンパスを超えた実践的な活動や学びができると思う。また、掛川市における可能性もあると思う。実際に合宿で行ったフィールドワークの中でも、掛川市に持続的な人の往来を可能にする方法について議論した。この議題に対して、他の大学・研究会を呼び込む企画や研究会が毎年掛川市に来るようにすればいいのかなど様々なアイデアが出てきた。これらについては、今後も関係者の皆さんと検討を続けることで、さらなる展開も期待できる。このように、今回の合宿でできた事例を活かし、掛川市を活性化させていく一助になるのではないかと考える。